

ビルマ（現ミャンマー）はどうかといいますが、おもしろいことにビルマにもインドネシアと同じような伝説があるのです。「ポウモウジョ伝説」と言つて、雷帝伝説と書きます。わたしも以前に『雷帝東方より来たる』という本を書きましたが、「ビルマが最後に英国に負けた時の王子が行方不明になつたままである。その王子がやがて白いガウンを着て、白い馬に乗つて、ポウモウジョと名のり、東の方からやつて来てイギリス人を追い払つてくれる。」という伝説です。

大東亜戦争の始まる前年の昭和十五年のことです。陸軍省は援蔣ルートの一つであるビルマルートを断つにはビルマに独立運動を起こさせ、ビルマ人自身がこのビルマルートを押さえる方法がないだらうかということを考えました。その謀略機関として作ったのが南機関です。その機関長が鈴木敬司大佐です。ビルマにはタキン党という立派な青年組織がありまして、その中から鈴木大佐らは三十人を選んで出国させて、海南島で徹底した軍事訓練をほどこします。そして開戦の時にタイの首都バンコクに集まり、ビルマ独立義勇軍（BIA）の旗を掲げます。そしてタイ国やその近隣にいる、ビルマ人に呼びかけ、鉄砲を持たせ、約二百人が堂々とビルマに侵入するのです。鈴木大佐はポウモウジョの伝説を聞いて、自ら白いガウンを着て、白い馬に乗つて指揮しました。

「ポウモウジョ来たる！雷帝来たる！」というので、ビルマ民衆は勢いづき、これで独立できると歓呼して、BIAを迎えたのです。

その時の三十人組の一人が有名なオン・サン（アウンサンとも呼称）です。

途中は省略しますが、このオン・サンやネ・ウインといった三十人組の人たちが、のちに軍司令官になり、首相になり、大臣になり、独立後もビルマの中核になるのです。日本軍も歓呼に迎えられて三月十日には首都ラングーンに入城します。

前述したようにインドネシアにおいては最高勲章「ナラリア章」を日本人が七人も受賞していますが、それと同様にビルマ独立の最高勲章は「オン・サン旗章」です。旗ではなく立派な勲章ですが、鈴木大佐は少将になられて亡くなられましたので、奥様の鈴木セツ子さんと七名の南機関の人々がこの「オン・サン旗章」を貰っています。侵略者に勲章をあげるわけがありません。しかも独立の勲功をたたえた最高勲章です。それだけ日本人がインドネシアやビルマの独立に尽くしたという証拠です。マレーシアにコタバルという所がありますが、ここには山下兵団が上陸したという記念碑が建てられています。日本の新聞はこういうことは少しも書きませんから、日本の国民は知らされていないのです。

（日本軍とアジアの独立については、ぜひ拙著「アジア独立への道」（展転社）をご参照下さい。またアジアにのこる日本軍の功績の足跡については、共著「アジアに生きる大東亜戦争」（展転社）をご参照下さい。）